第１２０号　１１月号　　平成１８年１１月１日

北山田小だより

横浜市立北山田小学校　５９２－００６１

「言葉は　選んで」

副校長　織茂　哲

１０月２８日の土曜日、山田富士公園で北山田秋祭りがあり、本校の４年生有志７０名が、はまっ子ソーランを披露してきました。ひいき目で見てしまうのでしょうか。やはり、一番ひかっていたのは、本校の子どもたちでした。子どもたちの地域行事への参加は、これだけでありません。以前にも紹介しましたが、９月には、３年生が敬老の集いに参加し、１０月には、２年生が町内会の運動会に参加しました。２年生は、パワー全開ＧＯＧＯカリート、３年生は、北山田音頭でした。これらには共通項があります。いずれも、踊り・表現を披露したわけですが、三者にはかけ声というか「合いの手」が共通してあります。ソーラン節は、ご存じの「ソーランソーランハイハイ」ですが、聞くところによると初期のソーラン節には合いの手はなく、後に景気づけで加わったらしい。それも、北前船の乗船員の居眠りを避けるためだとか。カリートは、どういう訳か「カリート」というと元気になってしまうかけ声だそうです。どんな意味か知りませんが、２年生は、「カリート」でみんなが元気そのもの。北山田音頭も然りです。

このところの悲しい、許し難い事件は、心ない一言や匿名の一言、集団による一言にその原因を見ることができます。個人をそこまで追い詰める、だれにそんな権利があるのでしょう。言葉は、不思議な力を持った生き物です。たった一言で、人に自信を与えたり、奈落の底に落としたり、あるいは人の一生さえも左右したり。だからこそ、気をつけて遣いたいし、「おはよう」「こんにちは」という挨拶や優しくほほえみかけるというような、交流分析でいうところの肯定的なストロークを駆使したいものです。元気になる言葉を遣いたいものです。

先日行った職員研修の中に、リフレーミングというものがありました。否定的な気持ちを肯定的な気持ちへと変えて表現する方法だそうです。

「やることが遅いんだよ」→「こつこつ丁寧にやってるね」

「みんなと同じようにできないの」→「ユニークな方法だね」

このように肯定的な言葉を遣うと、自分も相手も温かい気持ちになり、それぞれがお互いを受け入れられるようになって、円滑なコミュニケーションに結びつくということです。

少しずつですが、子どもたちは、実践しています。

全校遠足では、リーダー役の５年生や遊び担当の３年生に対して労いの言葉をかける６年生の姿が準備の段階から見られました。チーム旗担当の４年生もリーダーの自覚を持ち、安全のために下学年の子どもたちと手をつないだり、配慮した言葉かけをしたりということが自然にできていました。

毎日子どもたちの安全に配慮してくださっている学援隊（北山田富士クラブ）の方々が口をそろえておっしゃっています。「この頃、子どもたちが本当によく挨拶するようになった。自分たちも毎日のパトロールに張り合いがでるよ。」

言葉を発する側も、言葉を受ける側も、双方が元気になっている姿だと思います。北山田の子どもたちは、確実に育っています。

私たちは、一言を発する前にちょっと立ち止まる余裕を持ち、私はＯＫ、あなたもＯＫの相互理解を全校をあげて、進めていきたいと思います。はじめの一歩として、北山田小学校のだれもが、安心して、豊かに学校生活を送ることができるよう、大人も子どもも、学校でも家庭でも地域でも、相手を元気にさせる、自分の元気が出る言葉を選んでどんどん遣っていきましょう。